



1 学校経営の基盤

(1) 公教育としての原則

日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に示された教育の理念に基づき、学習指導要領に準拠した教育課程、福岡県教育施策（福岡県学校教育振興プラン）、太宰府市教育施策・学校管理規則に則り公教育を行う。

(2) 現代社会の要請と教育の動向

予測困難な社会の到来において、第4期教育振興基本計画の方針を踏まえ、生徒一人一人が幸せや生きがいを感じるとともに社会が幸せや豊さを感じ、調和と協調に基づいた幸福をめざした未来の創り手になるような生徒を育成する。また「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現とその具体化を推進するため、学校が教師の「学び合い」の場となり資質能力を高め合うことで、主体的に学びに向かう生徒を育成する。

(3) 家庭・地域との連携と信頼される学校づくり

これまで培われてきたよき校風と伝統を受け継ぎ、保護者・地域住民の付託に応えるとともに、社会の変化に主体的に対応できる「知・徳・体の調和のとれた生徒」を育成する。

また、コミュニティ・スクールの推進を通して、生徒に身に付けさせる資質・能力を家庭や地域と共有し、連携・協働しながらよりよい社会の創り手となるような生徒を育成する。

2 学校の教育目標

自らの手で未来を創ることのできる自立した生徒の育成

校訓「創造・勤労・友愛」

《笑顔が力になり、成長につながる！笑顔あふれる学校こそが伸び続ける！》

～Well-beingの実現を目指す学校に！～

「Well-being」とは、持続的な「幸福」であり、身体的、精神的、社会的に良好なで満足した生活が送れている状態などといわれている。Happinessは瞬間的な「幸福」とされている。Well-beingにおいてSeligman(2011)による多面的モデルの「PERMA理論」が参考とされる。PERMAとは以下の5領域からWell-beingを捉えようとするものである。

- ① **P** (Positive emotion) ポジティブ感情
- ② **E** (Engagement) 物事への積極的な関わり
- ③ **R** (Relationship) 他者とのよい関係
- ④ **M** (Meaning) 意味や意義の自覚
- ⑤ **A** (Accomplishment) 達成感

また、Well-beingの規定要因としてのキャリア資本という概念がある。この概念は「自己内在型資本」と「自己外在型資本」の2つに大別される(Dickmann&Doherty2008;Dickmann etal2018)。そのうちの「自己内在型資本」として、以下の4つの資本がある。

- ① 人的資本（コンピテンシー・学習歴など）
- ② 心理資本（効力感・希望・楽観性・再起性など）
- ③ 健康資本（心身の健康など）、
- ④ 社会関係資本（仲間・教師・保護者・地域住民等との社会的つながり）

この中でも、子どもたちが Well-being（持続的な幸福）という目的地を目指して進み続ける原動力は、目的地への到達過程において生じる様々な困難に打ち勝ち、乗り越えるための資本である「心理資本（効力感・希望・楽観性・再起性など）」と進み続けるための「健康資本（健康と体力）」が不可欠である。加えて、子どもたちの行動と目的地を目指して進み続ける支えとなり土台となるのが、仲間や教師、保護者、地域とのつながりである「社会関係資本」となる。

これら Well-being の実現は子どもだけではなく、子どもに相対する教師自身も一緒に目指すことで、学校全体の一体感や推進力が向上し、学校の教育目標達成につながると思う。また、学校・学級の Well-being を高めるために「THRIVE 指標」（菱田）を参考とする。

【学校・学級の Well-being を高める「THRIVE（成長・繁栄）」指標】（菱田）

Thinking Mindful	Healthy Coping	Relating Well	In the Moment	Values-Driven Actions	Emotion of Positivity
学ぶ人	健康な人	思いやりのある人	今に集中する人	変革する人	ポジティブな人
失敗は成功のチャンスと考えます	よく食べ、よく動き、よく寝ます	困ったときは「助けて」と言います	過去や未来ではなく、今に向き合います	安心・安全をつくります	あやまちをゆるします
学ぶことを喜びに感じます	ストレスに上手に対処します	人の話によく耳を傾けます	すごい自分を実感します	仲間と課題を解決します	ネガティブな感情から大切なことを学びます
自分を成長させる考え方をします	一日を振り返り感謝します	自分にも誰に対しても思いやります	支えられて生きていることを実感します	自分とまわりをよりよくすることに取り組みます	ポジティブな気持ちをたくさん作れます

（１）目指す生徒像

- ①自分の夢や目標に向かって挑戦するために、自ら学ぶことができる生徒
- ②自他のよさを尊び、豊かでたくましくしなやかな心と身体づくりに努める生徒
- ③郷土を愛し、多様な仲間とともに地域を創る担い手として貢献できる生徒

【目指す生徒像と具体的な資質・能力】 ※ が今年の重点目標

目指す力	学力【創造】	心体力【友愛】	協働力【勤労】
目指す生徒像	自分の夢や目標に向かって挑戦するために、自ら学ぶことができる生徒	自他のよさを尊び、豊かでたくましくしなやかな心と身体づくりに努める生徒	郷土を愛し、多様な仲間とともに地域を創る担い手として社会に貢献できる生徒
育成すべき資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情 ○自主性・主体性 ○挑戦心 ○目標設定力 ○継続力 	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識 ○自己調整力 ○省察力 ○レジリエンス ○柔軟性 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係形成力 ○多様な他者への理解と共感 ○自国や郷土の歴史や文化の理解 ○社会参画意識
基礎力	「学びに向かう力・人間性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」		

(2) 目指す学校像

- ①明るい活気に満ち、安心して生活しながら、のびのびと努力することができる学校
- ②一人一人のよさを認め、創意工夫あふれる教育活動を実践し、学習機会を保障する学校
- ③教職員が一体となり、家庭・地域が信頼と尊敬をもって連携・協働して取り組む学校

(3) 目指す教師像

- ①率先垂範・師弟同行を心がけ自己研鑽に励み、常に学び続ける教師
- ②互いに支え合う組織の中で、組織の一員として自分の強みや豊かな発想を発揮できる教師
- ③教育への情熱と生徒への愛と理解に溢れ、生徒や集団の成長を喜び合うことのできる教師

3 教育課題・経営課題

(1) 学校や生徒の実態

①生徒の実態

1 学年 4 学級、2 学年 4 学級、3 学年 3 学級、特別支援学級 4 学級（知的 2、情緒 2）の合計 15 学級で、全校生徒 368 名（令和 7 年 1 月 31 日現在）の小規模校である。生徒の多くは大変素直で、他へのやさしさをもっている。ただ、自尊感情が低く自分に自信がもてず、進んで何かに挑戦しようとする前向きに行動することが十分でない。また、周囲からどう思われるかを気にするため、周りに流されることも見られる。そのため、自分の考えや気持ち伝えることができず、人間関係づくりが苦手な生徒も多い。加えて、基本的な生活習慣の定着に課題があり、自己指導力とともに規範意識の醸成も進める必要がある。

○学力について

令和 6 年度の本校生徒の学力診断テストの県換算偏差値の結果は、下の表のとおりである。県平均が 50 である。

3 年生は 1、2 年次に授業を中心として積み上げてきたものの、教科によって大きな差が生まれ、学力の二極化が見られる。英語においては、授業はもちろんのこと毎日の課題を休まず継続したことによって十分に力を伸ばすことができた。しかし、数学は県平均に及んでいない。1 年生は、教科による大きな差はなく、どの教科も県平均を上回っている。しかし、四分位層による C 層ならびに D 層が一定数いるため、早い段階に基礎・基本の定着を図っておく必要がある。2 年生はこれまでの学習の積み上げが成果として表れ、県平均を上回ることができた。また、大きな課題であった英語も少しずつ力を付け、県平均に達することができてきた。1、2 年生で実施した福岡県学力調査の結果については右表のとおりである。

令和 6 年度の全国学力・学習状況調査における生徒質問紙の結果では、まず、平日 1 日あたりの授業以外の勉強時間が 1 時間未満であると答えた生徒は、

	令和6年2月	令和6年8月	令和7年1月	令和7年2月
1年	—	52	53	54
2年	52	52	53	54
3年	52	51	50	—

	1年		2年		3年	
	国語	数学	国語	数学	国語	数学
本校	69.8	65.7	58.5	53.5	58	46
福岡県	64.7	62.4	55.9	50.3	58	51
全国	—	—	—	—	58.1	52.5

【全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査平均正答率】

質問事項	本校	全国	比較
家での学習が1時間未満	43.4	35.4	-8.0
学習塾や家庭教師の先生に教わっていない	72.2	61.5	-9.7
自分と違う意見について考えるのは楽しい	73.4	76.2	-2.8
分からないことを詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫する	63.3	78.6	-15.3
先生は、授業やテストで間違ったところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている	88.9	84.9	+4.0
学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し次の学習につなげることができた	21.1	27.1	-6.0

【全国学力・学習状況調査生徒質問紙（一部）】

全国比－8.0ポイントである。加えて11.1%の生徒が月曜日から金曜日に家で全く学習をしないと答えていた。家庭での学習に対しての意識が高くなく、予習や復習による学習内容の定着につながっていないことがうかがえる。また、学習塾や家庭教師に教わっている生徒は少なく、学校における授業での取組の充実がより大切であることがわかる。さらに、生徒自身が自分の将来の姿や目標を設定することで見通しをもち、自身で計画的かつ継続的な家庭学習をすることが、基礎・基本の学力の定着と向上につながると考える。次に、「先生は授業やテストで間違ったところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」は全国比＋4であり、おおむね満足していることがわかる。しかし、「分からないことを詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫する」や「分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」は全国平均を大きく下回っている。このことから、学びが自分事ではなく、受動的なものとなっていることがわかった。さらに、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」についても十分ではない。これまで授業改善として取り組んできたことを見直し、「教師が教える」授業から「生徒学ぶ」授業へ転換し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る必要がある。

○体力について

	身長	体重	握力	上体起こし	前屈	反復跳	シャトルラン	50M走	立ち幅跳	ボール投げ	合計
男子	50.4	51.7	51.2	59.5	61.2	56.1	52.5	49.1	53.1	51.3	56.7
女子	51.5	50.5	52.3	46.4	52.4	51.5	44.9	42.2	48.1	45.9	46.7

令和6年度の3年生の新体力テストの結果は上表の通りである（全国基準値50）。男女ともに、体格面では身長は全国平均以上である。また、男子はどの項目もほぼ全国平均を大きく上回っているが、女子について特に50M走とボール投げの数値から見て、瞬発力や筋力にも課題があるものの、どの項目も学年があがるにしたがって確実に数値が伸びている。このことは、保健体育科の毎時間の授業で取り組んでいる基礎体力の向上を目指した「太中トレーニング」であったり、各運動部活動に呼びかけし、基礎的な全身持久力・筋持久力を向上するトレーニングを取り入れたりのした効果だと考える。上体起こしや長座体前屈は全国平均を大きく上回り、柔軟性に優れていることがわかる。

○不登校について

本校の生徒は大変素直で他へのやさしさを持っている。ただ人間関係づくりが苦手なうえ、自分の気持ちをコントロールするスキルが不十分な生徒や自分に自信がなく人の目を気にする生徒がとても多い。さらに、家庭の支援が十分に受けられず、生活リズムが整わないことで学校に来られて

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人数	27人	42人	44人
出現率	7.9	12.0	12.0
復帰率	55.6%	31.0%	47.7%

いない生徒も年々増加している。不登校に至る要因は複合的であるとともに年々複雑化してきていて、個別の対応に苦慮している。ただ、少しずつ校内適応指導教室の充実等がなされ、担任との連携の成果が上がり、復帰率（右表）は改善がみられる。加えて、不登校兆候早期発見のために作成したチェックリストの継続的な活用は、学年教師同士の情報共有や協働実践の一助となり、不登校生徒への支援に対する意識向上につながってきている。さらに生徒指導委員会での全校生徒についての情報共有や協働実践の効果も少しずつではあるが出てきている。今後は、不登校兆候を見つけるために効果がある取組を充実させるとともに、SCやSSW、小中での連携、その他関係機関とさらなる連携をしながらケース会議の方法や内容の吟味をすすめるとともに、個別の目標設定を意識した具体策を実行していく必要がある。

②目指す生徒像の達成状況について

○自分の夢や目標に向かって挑戦し、自ら学ぶことができる生徒【学力】

令和6年度の全国学力・学習状況調査の「学力」に関する設問に対する結果は表の通りである。まず、「将来の夢や目標を持っているか」に対し「当てはまる」と答えた生徒は全国比+0.6と上回っていたが、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」では-5.2であることから夢や目標など自身の進路について常に意識させることに課題がある。次に授業に関して「課題の解決に向け自分で考え、自分から取り組んだ」では全国比-9.2、「各教科などで学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動をした」では-9.9、「自分に合った教え方、教材、学習時間などだったか」では-8.6と答えていることから、課題に向けて自分で考えたりまとめたりする時間を確保したり、生徒一人ひとりの状況をとらえた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す授業改善が急がれる。さらに「授業以外で一日1時間以上勉強する」については全国比-7.7、平日「全くしない」と答えた生徒が11.1%、学校が休みの日に「全くしない」と答えた生徒が17.8%いて、家庭学習にも課題があることがわかった。ただし、令和6年度後期から実施した「MICHIZANEプラン」により、家庭学習に対する姿勢や意識の向上が見られ、成果として表れてきている。ただ、将来の夢や目標を持つてはいるもののそれを実現するための粘り強さや実践力を身に付けさせる必要がある。将来の夢や目標を常に意識できるようにするとともに、夢や希望を実現するために「何をすればいいのかわかるか」「どうすればいいか」を自身で考え、行動できるような力を付けるようにしたい。

質問事項	本校	全国	比較
将来の夢や目標を持っている	61.1	66.3	-5.2
家での学習が1時間以上である	56.6	64.3	-7.7
学校が休みの日に勉強をしない	17.8	13.1	+4.7
自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表する	57.7	64.8	-7.1
課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組む	71.1	80.3	-9.2
各教科で学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動をした	65.5	75.4	-9.9
自分に合った教え方、教材、学習時間などだった	72.3	80.9	-8.6
学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげた	64.4	77.8	-13.4

「各教科などで学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動をした」では-9.9、「自分に合った教え方、教材、学習時間などだったか」では-8.6と答えていることから、課題に向けて自分で考えたりまとめたりする時間を確保したり、生徒一人ひとりの状況をとらえた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す授業改善が急がれる。さらに「授業以外で一日1時間以上勉強する」については全国比-7.7、平日「全くしない」と答えた生徒が11.1%、学校が休みの日に「全くしない」と答えた生徒が17.8%いて、家庭学習にも課題があることがわかった。ただし、令和6年度後期から実施した「MICHIZANEプラン」により、家庭学習に対する姿勢や意識の向上が見られ、成果として表れてきている。ただ、将来の夢や目標を持つてはいるもののそれを実現するための粘り強さや実践力を身に付けさせる必要がある。将来の夢や目標を常に意識できるようにするとともに、夢や希望を実現するために「何をすればいいのかわかるか」「どうすればいいか」を自身で考え、行動できるような力を付けるようにしたい。

○自他のよさを尊び、豊かでしなやかな心と身体づくりに努める生徒【心体力】

全国学力・学習状況調査の「心力」に関する設問に対する結果は右表の通りである。まず、「自分によいところがある」については、全国比+2.2、「先生はあなたのよいところを認めている」については、全国比+4.0と答え、学校行事等の取組を通して「自分のよさ」を意識させることができている。ただ、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」と答えたり、「友達関係に満足している」と答えたりした生徒が全国よりも高い数値を示しているものの、「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒は78.9%であり、さらに学校での教育活動全体で「学校に行きたい」と思えるような居場所づくりや絆づくりが必要である。合わせて「困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人に相談する」項目では全国比を下回っている。「自分のよさ」を発揮できるようにするため、助けてほしいという声を出せるようにするため、さらなる風土づくりを充実させるとともにたくましさや柔軟性を伸ばす取組を充実させなければならない。加えて、「普段、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしてい

質問事項	本校	全国	比較
自分によいところがある	85.5	83.3	+2.2
先生はあなたのよいところを認めている	94.4	90.4	+4.0
いじめはどんな理由があってもいけないことだ	96.7	95.7	+2.0
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	47.8	44.0	+3.8
困りごとや不安あるとき、先生や学校にいる大人に相談する	57.8	67.4	-9.6
学校に行くのは楽しい	78.9	83.8	-4.9
友達関係に「満足している	92.2	90.1	+2.1

「普段、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしてい」生徒が61.1%、「普段、1日当たり2時間以上ゲームをする」生徒が半数近くいたりするとともに、「毎日同じ時間に寝る」「毎日同じ時間に起きる」ことが十分でない。身体や脳の健康に重要な効果がある睡眠を見直すことで、学力の向上や心の安定となり、様々な取組による成長を促進させることにつながると考える。

○郷土を愛し、多様な仲間とともに地域を創る担い手として貢献できる生徒【協働力】

全国学力・学習状況調査の「協働力」に関する設問に対する結果は右表の通りである。コロナ禍を乗り越え、地域におけるボランティアの機会が増えてきた。したがって、すすんで地域で行われる活動に取り組む生徒が多くなり、地域から認められて

質問事項	本校	全国	比較
人の役に立つ人間になりたい	93.4	95.4	-2.0
人が困っているときは進んで助ける	88.9	90.1	-1.2
自分と違う意見について考えるのは楽しい	73.4	76.2	-2.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考える	61.2	76.1	-14.9
放課後や週末に地域の活動に参加している	13.3	3.9	+9.4

らえる機会も増えている。そのことから自分が誰かのために何かすることで「人の役に立つ人間になりたい」と感じる生徒が多いと考える。また、「人が困っているときは進んで助ける」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」については、いずれも高い数値である。このことは、本校が独自に取り組んでいる地域と学校を生徒がつなぐ「地域親善大使」の存在が大きい。「放課後や週末に地域の活動に参加している」項目が全国比+9.4と大きく上回っていることに表れている。しかし、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」といった主体性を伴った課題解決力や社会参画力の育成に大きな課題がある。

(2) 教育課題と経営課題

①教育課題

- 学力・体力の向上
- 家庭学習の充実
- 不登校の減少と未然防止
- 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成
- コミュニケーション力の向上
- 地域や社会への参画意識の向上

②経営課題

- 創造性のある教育課程の編成
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業力向上
- 特別支援教育の視点に立った教育活動の推進
- 生徒指導力・生徒理解力の向上
- 組織の機能化と連携の強化
- CS充実に向けた小学校との連携強化

2 令和7年度の重点目標

「自分のよさ」を大切にするとともに、

自らすすんで他者とつながり、「もっと学びたい」と伸びる生徒の育成

(1)「なりたい自分」になるため、自己ベストに向け励むことができる生徒(創造)

【目標設定力;なりたい自分】

(2)自分と自分に関わる人すべてを大切にしながら、ポジティブ思考で課題を乗り越える生徒(友愛)

【省察力;しなやかな心】

(3)仲間とともに、自分のまわりのために役に立とうとすることができる生徒(勤労)

【人間関係形成力;つながる力】

(1)目標設定力;なりたい自分

『なりたい自分』になるため、自己ベストに向けて励むことができる生徒（創造）

これまでの取組の成果として、夢や目標をもっている生徒が少しずつ増えてきている。しかし、先を見通した計画的な学習が不十分な現状がある。また、学ぶことが自分の成長につながると実感することが十分でないため、積極的になれない生徒も一定数いる。加えて、道徳に関することについて、自分なりの目標を立て、やり抜く強い意志を持って取り組むや、自分で考えたり自分の意志で決定したことに対して最後まで責任ある行動をとったりすることに課題がある。そこで、まず自分の夢や目標の実現に向け「なりたい自分」のために「何をすればいいのか」「どうすればいいか」を自身で考える力を育成する必要がある。

- ◇学力・体力の向上／学力；学力診断テスト県偏差値55、体力；運動能力全項目全国平均以上
- ◇家庭学習の充実／全国学力・学習状況調査関連項目本年度比+1P
学校評価関連項目3.0以上（4段階評価）
- ◇「THRIVE（成長・繁栄）」指標による幸せ感スケール／関連項目3.0（4段階評価）

(2)省察力;しなやかな心

自分と自分に関わるすべての人を大切にしながら、ポジティブ思考で課題を乗り越える生徒（友愛）

生徒は多くは素直で、他へのやさしさがある。ただ、自分に自信がなく周囲にどう思われるかを気にするため、周りに流されることがある。加えて、失敗したことを前向きにとらえ、成長に変えていこうとする気持ちが十分でない。さらに、道徳に関することについて、自己を見つめ、自分の個性をもっと伸ばそうとすることや、自分のよさを感じる生徒が増えてきているものの、十分な自信を持つまでになく、堂々と胸をはって行動できていないこともうかがえる。自分の成長を自分で振り返ることで自分のよさを大切に、前向きな気持ちが課題を乗り越える原動力となるような生き方を育成したい。

- ◇規範意識の醸成／全国学力・学習状況調査関連項目全国同レベル
- ◇不登校の減少と未然防止／不登校出現率10.0%以下、復帰率60%以上
- ◇「THRIVE（成長・繁栄）」指標による幸せ感スケール／関連項目3.0（4段階評価）

(3)社会参画意識;つながる力

仲間とともに、自分のまわりのために役に立とうとすることができる生徒（敬愛）

全国学力・学習状況調査質問紙の結果から、地域の行事等に意欲的に参加し、「役に立つ人になりたい」「困っている人がいたら進んで助けている」と実感している生徒も多い。その反面、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるように工夫することができていなかったり、地域や社会をよくするために何をすべきかについて考えたりすることができていないことがわかった。また、公共の福祉や社会の発展のために自分で考え進んで尽くそうとすることに課題がある。他者に対する思いや他者との関わりに対する前向きな姿勢をいかすなかで、自分の考えや思いを伝える力を身につけることが必要であると考えられる。

- ◇コミュニケーション力の向上／全国学力・学習状況調査関連項目全国同レベル
学校評価関連項目+0.2P
- ◇地域や社会への参画意識の向上／全国学力・学習状況調査関連項目全国同レベル
学校評価関連項目+0.2P
- ◇「THRIVE（成長・繁栄）」指標による幸せ感スケール／関連項目3.0（4段階評価）

5 重点目標達成のための経営の重点

(1) 重点目標を達成するための指導の重点（教育課題に対しての具体的方策）

	目標設定力 【なりたい自分】	省察力 【しなやかな心】	人間関係形成力 【つながる力】
	<p>ア 「太宰府中メソッド」を意識した教科等の授業の充実</p> <p>イ 弾力的な教育課程として設定する「Dタイム」による「基礎力」の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「SEL-8S」による社会性の醸成、計画的なソーシャルスキルトレーニングの実施、AIドリル導入による個別最適な学びの充実、基礎学力アップのための小テスト</p> <p>〈目標設定力〉 MICHIZANE プラン、MICHIZANE プリント、AIドリル、基礎学力アップ小テスト</p> <p>10daysTry の充実</p> <p>〈省察力〉 「SEL-8S」学習プログラム、ソーシャルスキルトレーニング</p> <p>〈人間関係形成力〉 ふるさと学習の充実</p> <p>「SEL-8S」学習プログラム、ソーシャルスキルトレーニング</p> </div> <p>ウ 総合的な学習の時間の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Dプラン」の充実 ○「ふるさと学習」を位置づけ、郷土について探究する活動の実施 <p>エ 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりと環境づくり <p>オ 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考え、議論する道徳」「人権学習」「食育」を意識した授業 		
具 体 的 方 策	<p>ア 学力・体力の向上の実現に向けた授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上プラン、体力向上プランを意識した年間指導計画の作成と授業内容の充実 ・確実なPDCAサイクル ○問題意識・課題意識を高め「わからなかったこと」を大切に学習 ・自分事として取り組むことができる「問い」の設定 ○自立した学びの展開 ・「MICHIZANE プリント」と朝学習の連動 ・「Dタイム」におけるAIドリルの積極的活用 ・「MICHIZANE プラン」の充実 <p>イ 生徒のAARサイクルによる実行力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学期始めに立てる個人目標や生活ノートによる目標・計画・実施・自己評価（振り返り）の積み重ね 	<p>ア 生徒の活躍の時と場を設定した生徒会活動・学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の課題を意識したスローガンの設定とそれを基にした全員参加の生徒会活動 ・専門委員会・教科係等学級係 ○実行委員制による学校行事 ・体育祭 ・文化祭 ・自然教室、修学旅行 など <p>イ 発達支持的生徒指導を基盤にした教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成 ○カウンセリングマインドの実践による信頼関係の充実 ○校内適応指導教室や通級指導教室との連携強化による教育活動の充実 ○生徒指導委員会の内容共有の徹底と個々の生徒のニーズを考慮した教育活動の推進 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」活用の充実 	<p>ア 生徒の実態把握の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめに特化したアンケート」「学校生活アンケート」等を通したいじめの早期発見・即時対応 ○不登校兆候発見チェックリストとストレスチェックの効果的活用とストレスマネジメント教育の推進 ○「MICHIZANE 賞」によるCSの取組を中心とした地域貢献活動の充実 ○生徒の地域貢献活動への意識の向上 ・「地域親善大使」のさらなる活性化 ・地区別集会による地域ボランティアへの積極的な参加促進 ○小中連携による活動への積極的参加 ・小中地域親善大使の交流 ・体育祭、文化祭への小学生招待

(2) 重点目標を達成するための経営の重点

①学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善

- ア 新しい時代に求められる資質・能力を育むため、創造的かつ弾力的な教育課程の工夫をする。
- ・「Dタイム」の年間計画作成とその検証による改善
 - ・生徒一人ひとりに合わせた学び方の推進
- イ 生徒が自分事として主体的に学ぶための課題を設定する取組を充実させる。
- ・「太宰府中メソッド」（「めあて」「見通し」「個別思考」「対話的な学び」「振り返り」）の実施
 - ・「Fプラン」をもとにした「めあて」設定による生徒の主体的な授業参加促進
- ウ 学力向上コーディネーターを中心として、学力の分析に基づく学力向上プランの策定と確実な検証・改善を図る。
- ・研究推進委員会と教科部会の確実な時間設定と連携の充実

②学年・学級経営の充実及び校務分掌の組織運営・連携の活性化

- ア 学校の教育目標を意識し、学校経営構想と一貫性と整合性をもった学年経営構想および学級経営構想を策定し、本年度の重点目標で示した目指す生徒像を具現化する教育活動を行う。
- イ 学校の教育目標を具現化する教職員の Well-being を高め、イノベーションにつながることを一人一実践することで、学校づくりに参画する喜びを共有し組織運営の活性化を図る。
- ウ 特別支援教育コーディネーターならびに養護教諭と主任会との連携を強化し、主任会のさらなる活性化とともに特別支援教育の推進と発達支持的生徒理解の充実につなげる。
- エ 生徒のよさと可能性を最大限に伸ばすため教職員一人一人の強みを前面に押し出した学級経営に努めるとともに、一人一人のよさを実感させ、活躍できる時と場などの意図的な設定（環境づくり）を計画的に行い、Well-being を高める学級・学年集団づくりを推進する。
- オ 教職員が笑顔で生徒のよさと成長を喜び合うことができるよう風通しのよいコミュニケーションを図るとともに、互いを支え合い、補い合い、励まし合うことで業務の推進力を図る。
- カ 校務支援ソフトの活用推進による業務の効率化を図るとともに、超過勤務削減に向け、一斉ノー残業デーや振替の完全取得、計画年休取得推進等全員で取り組めることを徹底する。
- キ 学年ならびに各分掌が勤務時間内に組織的かつ計画的に業務の遂行できるようにするため、各部会の時間設定の工夫をする。

③教育専門職としての資質能力の向上を図る職員研修の充実

- ア 主題研究を通じた教師の授業力向上を図る。
- ・「教師が教える」から「子どもが主体的に学ぶ」を重視する授業づくりへの転換
 - ・全体授業研修会と各教師年間2回の公開授業（授業診断）を通じた授業改善
 - ・教師同士の同僚性を高めるため「子どもの学び」から学ぶ授業協議会の実施
- イ 日常的な校内OJLを推進し、実践的な指導力向上を図るとともに、県教育センターのキャリアアップ研修や教科等研究会、各種研修会、県内外の先進校視察研修等を積極的かつ計画的に進める。
- ウ 特別支援教育に対する資質能力の向上を図る。
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業づくり推進に向けた研修
 - ・特別支援学級担任、通級指導教室担当教師、交流学級担任の連携の充実
 - ・巡回相談等における専門的見地からの指導助言内容の活用促進
 - ・個別の支援計画、個別の教育指導計画の積極的な活用
- エ ICTを活用した授業改善ならびに教育活動を推進する。
- オ 不祥事防止に向けた研修を計画的に実施し、信頼される学校づくりに努める。

④発達支持的生徒指導の推進

- ア 基本的な生活習慣の徹底と規範意識の高揚に努め、時間の厳守、自分から明るく元気な挨拶、立腰を意識した姿勢、黙働清掃の指導を全教職員で指導する。
- イ 「いじめに特化したアンケート」「学校生活アンケート」「生活ノート」等を通じた日常的な生徒の実態把握といじめの早期発見・即時対応を確実に行う。
- ウ 「不登校兆候発見チェックリスト」を継続的に活用し、不登校兆候ならびに不登校の未然防止につなげる。SCやSSW等の積極的活用ならびに確実な連携したりして対策の強化を図る。
- エ 生徒指導委員会やケース会議でのSCやSSW等の専門的な見地を参考にしながら、生徒の個別の状況や背景をできる限りの確に把握し、取組を決定・実行する。さらに確実な事後の評価、ならびにSCやSSWとの情報往還を大切にし、課題解決へ努める。
- オ 生徒の小さな変化や問題行動を見逃さず、学年および学校全体で確実に情報を共有しながら客観的な事実を把握するとともに、行動の背景等を分析し一人一人に合った丁寧な指導を組織的に行うことで健全育成を図る。
- カ 生徒会活動や様々な行事等における生徒の活躍の時と場を意図的・計画的に設定し、生徒一人一人のよさを実感させることを通して主体性、自律性、創造性を伸ばす。

⑤コミュニティ・スクールの推進

- ア 学校運営協議会を中心として、育てる生徒像の共有、学校・家庭・地域の役割と責任の明確化を図り、コミュニティ・スクールとしての具体的な取組を着実に実践する。
- イ 定期的な地域学校協働活動推進部会を開催し、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）から「地域のひと・もの・こと」を教育活動に活用する。
- ウ 校内のCS体制を整備し、学校運営協議会との連携強化に努める。
- エ 学校・家庭・地域をつなぐ「地域親善大使」の積極的な活用。
- ・地域親善大使会の定期的な開催
 - ・地域親善大使の主体的な活動促進（生徒会活動との連携）
 - ・学校開放日のさらなる拡大
- オ 太宰府中ブロックコミュニティ・スクール構想に基づき、小中連携の充実を図るため、以下の取組を行う。また、福岡女子短期大学ならびに筑紫女学園大学との連携強化を図る。
- ・小学校の学校運営協議会参加、中学校から小学校への学校運営協議会への参加
 - ・校長部会
 - ・BCS運営推進部会（教頭・教務）

